

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00169

研究課題名(和文) 浮世絵にみる文明開化 - 子ども文化の変遷と教育ツールとしての玩具絵 -

研究課題名(英文) Children's world depicted in Ukiyo-e from the Edo period to Meiji Restoration -A change in Children's culture and the toy paintings as an educational tool -

研究代表者

藤澤 紫 (Murasaki, Fujisawa)

國學院大學・文学部・教授

研究者番号：70459303

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は19世紀の浮世絵版画に着目し、学びや遊びのツールとしての機能、後の出版文化に与えた影響、錦絵を介した近代の東西文化交流史の検討を進めた。2014年に発足した「国際子ども文化研究会」、及び2016年度に助成を受けた「子どもと母子の図像学 意匠性と吉祥性を中心に」(國學院大學特別推進研究助成金)を基礎とする。國學院大學(東京都渋谷区)にて継続的な研究会を重ね、2冊の報告書『浮世絵にみる文明開化 - 子ども文化の変遷と教育ツールとしての玩具絵 -』平成30年度～令和2年度科学研究費助成事業基盤研究(C)報告書(平成30年4月～令和2年2月、令和5年4月～令和6年2月)を上梓した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

浮世絵及びその作品群の芸術的・学術的評価は年々高まりも見せている。その一方で、浮世絵、特に江戸時代後期から近代にかけて量産された子供向けの玩具絵に関しては、その全貌も、作品ごとの機能性などもまだ十分に論じられていない。国内はもとより、欧米の諸機関が所有する浮世絵の中にもこれらの作品が含まれているが、美術的な価値が定まらず、表に出ていないものも多いと思われる。最終年度の2023年度は研究代表者の国内・国外研修期間にあたり、ルーヴェン大学を研究拠点に、欧州6か国の国公立の諸機関にて作品を調査し、現地の研究協力者らと国際会議を開き、これらの課題を共有することで、次の課題へと論を進めることができた。

研究成果の概要(英文)：This study focused on Ukiyo-e prints of the 19th century, examining (i) their function as tools for learning and play, (ii) their influence on later publishing culture, and (iii) the history of East-West cultural exchange in the modern period using Nishiki-e. The International Children's Culture Research Group, established in 2014, and the 2016-funded "Iconography of Children and Mothers and Children. -with a focus on design and auspiciousness-" (Kokugakuin University Special Promotion Research Grant) as the basis for the project. Study groups were held continuously at Kokugakuin University (Shibuya-ku, Tokyo) and two reports "Ukiyo-e and the Civilisation and Civilisation of Japan: Transition of Children's Culture and Toy Pictures as Educational Tools" (1) April 2008 - February 2020 and (2) April 2023 - February 2024) were published. The publication was published in (1) April 2023 and (2) April 2023 to February 2024.

研究分野：日本美術史、浮世絵、日本近世・近代絵画史、比較芸術論

キーワード：浮世絵 玩具絵 文明開化 子ども文化 近世絵画 近代絵画 教育 錦絵

1. 研究開始当初の背景

「子どもの群像」を積極的に描くのは、日本東洋美術に顕著な傾向のひとつである。とりわけ浮世絵のように、庶民層の子どもを主題にし、版画技法によって作品を量産した事例は世界的にも希少であるといえよう。しかし日本の美術史研究において、これらが積極的に扱われたり、体系的に論じられたりする機会は、これまでそう多くはなかった。2010年頃から、「子ども絵」と冠した書籍や展覧会の企画が増え、また海外でも同様の研究や展覧会が注目されているものの、国際的な子ども文化研究の中に浮世絵が位置づけられ、またその特性が論じられる機会はまだ限られている。また、知育玩具として重要でありながら、散逸が進んでいる「玩具絵」に関して、その資料的価値を認め、早急に研究対象として認識すべきであるという考えが、本研究を進める根底にある。

基盤となる研究は、浮世絵や江戸、明治の出版物とこども文化の関りを検討する目的で2014年に発足した、「国際子ども文化研究会」にはじまる。浮世絵や子ども文化研究の第一人者にご指導を頂きながら研究会や見学会、調査を重ねてきた。また公文教育研究会には、子ども絵や玩具絵コレクションの画像、資料を多数提供していただいた。その成果を基に、研究代表者である藤澤紫が2016年度に代表となったテーマ研究「子どもと母子の図像学 意匠性と吉祥性を中心に」(國學院大學特別推進研究助成金)を進めた。日本近世絵画を軸に、欧米圏の作品も含めた子ども絵、母子絵、またその図案を有する工芸作品を収集し、図像の意味や変遷を整理した。2018年にスタートした、科学研究費基盤研究(C)「浮世絵にみる文明開化 - 子ども文化の変遷と教育ツールとしての玩具絵 -」は、20世紀に刊行された浮世絵版画を軸に、これらが学びや遊びのツールとしていかに機能し、その後の出版文化に継承されたのか、作品群の整理を進めるとともにその一端を明らかにすることを目指した。

2. 研究の目的

近世から近代へと移り変わる子どもの暮らしや風俗を、絵画作品、工芸作品、文献資料などの各方面から論じ、江戸から明治の子ども文化を検証することは、現代の教育研究にも貴重な資料を提供することにつながると考えている。様々な分野の第一線で活躍する国内外の研究者と課題や情報を適宜共有し、浮世絵に描かれた江戸・明治の子ども文化を歴史的な背景に留意しながら読みとくこと、浮世絵師が手がけた玩具絵の整理と教育ツールとしての機能を検証することは、美術史、教育史、出版史などの複数の領域にまたがる成果を生み出すものとなる。さらに文明開化期を介した紙と絵具についての検討などにも目を配り、国内外の研究者の最新の成果を共有しながら、玩具絵が有する文化的な価値や、現代に継承される子ども文化の魅力を、論文、書籍、あるいは展覧会の開催などを通じて、随時発信することを目標とした。

浮世絵の国際的な評価は年々高まり、学術的にも様々な地域の研究者が多様性のあるアプローチを行っている。美人画(主に女性像)、役者絵、武者絵、名所絵、花鳥画など分野別の研究や、特定の絵師や作品に焦点を当てた検討が主流となっている。その中で、「子ども」や「玩具」に焦点を当てた研究は、主に教育学の分野からなされており、美術史の観点からのアプローチはいまだ十分になされてはいない。特に江戸時代後期から近代にかけて、新たな画題として浮上する「庶民層の子ども」を描いた風俗画(以下、「子ども絵」と称する)や、量産された子ども向けの玩具絵に関しては、その全貌も、作品ごとの機能性などもまだ十分に論じられていない。

浮世絵は、江戸時代の絵画の中でも特に海外文化とのつながりが深い画派である。中でも、18世紀後半における「蘭学」との出会い、銅版画の影響、博物学の流行などの事例は、それぞれが浮世絵の「人体表現(美人画・役者絵)」、「景観表現(名所絵)」、「動植物の描写(花鳥画)」などの発展に関与し、さらには子ども絵、玩具絵にもさまざまな影響を与えている。これらを踏まえ、浮世絵をとりまく欧州文化の影響について検討することも、本研究の重要な課題であると考えた。

3. 研究の方法

江戸庶民文化の華とも称される浮世絵には様々な趣向が盛り込まれており、中でも玩具絵には、子どもたちが実践的な遊びと学びを体験できるような工夫が見られる。玩具絵とは、主に子どもを対象者とした紙製の遊具のことで、江戸時代には「手遊び絵」などとも言われ、子どもの情操教育にも役立てられていた。切る、貼る、組み立てるなど、手作業で仕上げるものも多く、その工程こそが学びの機会であった。玩具絵は、浮世絵が隆盛した江戸中期から明治期にかけて多数制作されたが、身近な作品だからこそ多くは早々と捨てられる運命にあり、保存状態の良い伝来品はごく一部である。本研究では玩具絵の整理と教育ツールとしての機能を検証するため、

「1. 関連作品の資料収集」、「2. 作品のリスト化と分析」、「3. 作品に関わった絵師の検討」、「4. 教育ツールとしての活用方法の検討」の4項目に分けて作業を進めた。

このうち、「1. 関連作品の資料収集」に関しては、国内外の諸機関における実地調査による撮影、デジタルアーカイブ資料の活用、図録、全集、売り立て目録などの刊行物からの複写によりデータを収集した。「2. 作品のリスト化と分析」を行い、それらを一覧化し、テーマ別に並べ替えるなどの作業を行った。その結果、浮世絵師の中でも玩具絵に関わったのは、歌川派の絵師たちであることが確認された。特に歌川芳藤（1828～87）は「おもちゃ絵芳藤」の異名を持つほど優れた作品を残している。「3. 作品に関わった絵師の検討」では、芳藤と彼が手掛けた玩具絵の分析を中心に、現代の私たちをも魅了する玩具絵の特徴を複数の小項目に分けて分析した。

なお、一言で玩具絵といっても、その内容は実に多様である。「4. 教育ツールとしての活用方法の検討」では、収集した史資料の分析結果をもとに、その評価と、活用法について考察した。基本は木版多色摺による版画で、版元も絵師もほぼ、浮世絵制作に関わる人材が携わっている。主な対象は子どもたちと思われているが、内容によっては成人向けのもの、または親子で楽しんだと思われるものもある。形状も1枚で完結するもの、シリーズ物、立版古（組上げ絵）のように5～6枚もの分量を要する大がかりな作品中にもある。「遊び」の用途から、現代に伝わる作品はごく一部であると解されるが、美術的な価値が定まっていないことも影響し、所蔵している諸機関があっても表に出すに至っていない例も散見される。ベルギー、イタリア、オランダの国公立の機関で史資料の実見調査等を行ったが、欧州の諸機関ではそもそも「子ども」や「おもちゃ」に焦点を当てたコレクションや展示が少なく、情報の公開に関しても同様の傾向がみられる。中でも、世界屈指の浮世絵コレクション（約7500点）を所蔵するベルギー王立美術歴史博物館（ブリュッセル）にて、複数回にわたり浮世絵の作品調査を行ったが、紙の質、保存状況や出版時期による色彩の微細な違いなど新たな発見があった。各館の学芸員の協力を得たほか、ルーヴェン大学にPostdoctoral Researcherとして在籍する浮世絵研究者、フレイヤ・テリン氏の協力者を得たことも大きかった。

4. 研究成果

國學院大學（東京都渋谷区）若木タワー内教室、研究室にて継続的な研究会を重ね、2019年未からのパンデミックの影響下においてもオンラインやメールによる情報の共有、2冊の報告書『浮世絵にみる文明開化 - 子ども文化の変遷と教育ツールとしての玩具絵 -』平成30年度～令和2年度科学研究費助成事業基盤研究(C)報告書（平成30年4月～令和2年2月、令和5年4月～令和6年2月）を上梓した。近年の展覧会では、前掲の「国際子ども文化研究会」のメンバーである中城正堯監修、村瀬可奈担当の「明治維新から150年 浮世絵にみる子どもたちの文明開化」展（於：町田市国際版画美術館・足利市美術館 2017年10月～2018年）や、研究代表者の藤澤の監修による「くもんの子ども浮世絵コレクション 遊べる浮世絵展」（広島県立美術館・2017年、練馬区立美術館・2018年、奈良県立万葉文化館・2020年、横須賀美術館・2021年、栃木市美術館・2023年）など、江戸から明治期の子ども文化や玩具絵を主軸とした展覧会を開催した。このような教育普及に関わる積極的な活動も、子ども文化、玩具絵研究の成果の一端であろう。

最終年度の2023年度は研究代表者の国内・国外研修期間にあたり、ルーヴェン大学を研究拠点に、ベルギー（ルーヴェン大学図書館、ルーヴェン=ラ=ヌーヴ図書館、ベルギー王立美術館ほか）、オランダ（ライデン国立民俗学博物館ほか）、イタリア（MAO 東洋美術館ほか）における作品調査をはじめ、欧州6か国の国公立の諸機関に足を運び、資料収集に努めた。このフィールドワークを行った結果、現地の研究協力者らと課題を共有し、今後の研究へと歩を進めることができた。また、研究代表者が所属する國學院大學とルーヴェンカトリック大学間が協力し、2度の国際シンポジウムを開催、報告書を上梓した。

上記の成果とともに、今後の研究課題も残っている。現状、「玩具絵」、「子ども絵」などの用語は、当初の想像以上に幅広い作品に対して用いられているため、具体的な基準を示す必要性があると感じている。また、技術面においても同様に課題が残っている。色鮮やかな「玩具絵」は、江戸時代には手遊び絵とも呼ばれ、幕末・明治期の名だたる浮世絵師が筆をふるった。それを支えたのは、彫り摺りの匠の手業と「和紙」の力であることも言及したい。ユネスコの無形文化遺産にも登録された手漉き和紙であるが、紙衣という紙製の衣装もあるほど紙は強く、子どもの遊び道具にも適した素材であった。長く貴重品であった紙も、江戸時代には庶民層に広がり、出版文化の隆盛を支えた。紙の生産と質の向上、及び色料の変化、工夫が浮世絵の発展にどのように関わっているのか、現代の製作者や工房の協力を得て、技術面にかかわる検討を一層進めることが求められる。国内外の研究者の最新の成果を共有しながら、玩具絵が有する文化的な価値を確認し、江戸後期から近代における子どもを軸とした文化史を、今後も研究し随時発信することにつとめたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

| | |
|---|-----------------------------|
| 1. 著者名 藤澤紫 | 4. 巻 2 |
| 2. 論文標題 刊行に際して、Japanese culture and East-West cultural exchange in the 19th and 20th centuries : 19～20世紀の日本文化と東西文化交流 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 『浮世絵にみる文明開化 - 子ども文化の変遷と教育ツールとしての玩具絵 - 』平成30年度～令和2年度 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 報告書(令和5年4月～令和6年2月) | 6. 最初と最後の頁 4 - 8、20 - 49 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|----------------------|
| 1. 著者名 藤澤紫 | 4. 巻 123 (11) |
| 2. 論文標題 「葛飾北斎画「富嶽三十六景」にみる「光琳」イメージ：浮世絵と琳派」 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 『國學院雑誌』 | 6. 最初と最後の頁 1 - 23 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.57529/00000757 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 藤澤紫 | 4. 巻 2020年7月号 |
| 2. 論文標題 「「美しき幽霊」の誕生」 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 『完全ガイドシリーズ290 日本の妖怪と幽霊』 晋遊舎 | 6. 最初と最後の頁 24-27 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名 藤澤紫 | 4. 巻 9 |
| 2. 論文標題 「浮世絵は海をこえ、時をこえて」 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 『國學院雑誌』 | 6. 最初と最後の頁 18 - 19 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 藤澤紫 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 「江戸・明治の玩具絵と「おもちゃ絵芳藤」」 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 『浮世絵にみる文明開化 - 子ども文化の変遷と教育ツールとしての玩具絵 - 』平成30年度～令和2年度 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 中間報告書(平成30年4月～令和2年2月) | 6. 最初と最後の頁 5 - 16 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計20件(うち招待講演 17件/うち国際学会 4件)

| |
|--|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「Media and Pictures of the 18th-20th Centuries : 18～20 世紀のメディアと絵画」 |
| 3. 学会等名 Exchange meeting : 1st University of Leuven/ Kokugakuin University International Academic Exchange Programme (国際学会) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「East-West cultural exchange in Ukiyo-e: a story of images and media from the reception of 'Dutch studies' to the influence on Art Nouveau : 浮世絵にみる東西文化交流 蘭学の受容からアール・ヌーヴォーへの影響まで、イメージとメディアをめぐる物語 」 |
| 3. 学会等名 Special Lecture at KU Leuven (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「Japanese culture and East-West cultural exchange in the 19th and 20th centuries : 19～20 世紀の日本文化と東西文化交流」 |
| 3. 学会等名 Exchange meeting : 2nd University of Leuven/ Kokugakuin University International Academic Exchange Programme (国際学会) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「浮世絵とあそぼう！ 大人のまなざし、子どもの暮らし」 |
| 3. 学会等名 「くもんの子ども浮世絵コレクション 遊べる浮世絵展」記念講演（招待講演） |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「日本の夏！浮世絵とおしゃれ」 |
| 3. 学会等名 國學院大學博物館×東急プラザ渋谷「日本の夏に会う」展出張ワークショップ |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「水のことほぎ 浮世をえがく」 |
| 3. 学会等名 山種美術館 オンライン講演会（招待講演） |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「美人画に恋して～ものがたる浮世絵～」 |
| 3. 学会等名 城西大学水田美術館 浮世絵講座（招待講演） |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「江戸へようこそ！-三谷家コレクションに見る浮世絵のある暮らし-」 |
| 3. 学会等名 日比谷図書文化館（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---------------------------|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「日本美術にみる日本の心」 |
| 3. 学会等名 東京都神道青年会（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「もっと！遊べる浮世絵 その1 浮世絵と江戸文化 「遊べる浮世絵展」のあそびかた 」 |
| 3. 学会等名 横須賀美術館（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「もっと！遊べる浮世絵 その2 おもちゃの浮世絵」 |
| 3. 学会等名 横須賀美術館（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「もっと！遊べる浮世絵 その3 おかしな浮世絵」 |
| 3. 学会等名 横須賀美術館（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「遊べる浮世絵展のあそびかた」 |
| 3. 学会等名 奈良県立万葉文化館公式YouTubeアカウントより配信（招待講演） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--------------------------|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「浮世絵とジャポニスム」 |
| 3. 学会等名 比較文化研究所（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「浮世絵と江戸の出版界」 |
| 3. 学会等名 國學院大學栃木短期大学日本文化学科（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--------------------------|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「もっと！遊べる浮世絵！」 |
| 3. 学会等名 練馬区立美術館（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「女性美と粹 江戸・明治の美人に学ぶ」 |
| 3. 学会等名 國學院大學博物館（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「愛される「美人画」暮らしとメディア文化」 |
| 3. 学会等名 第20回 国際浮世絵学会 春季大会（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「遊べる浮世絵」 |
| 3. 学会等名 國學院大學哲学会第33回總會講演会（招待講演） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 藤澤紫 |
| 2. 発表標題 「鏡と神道文化 浮世絵と鏡に映る風俗」 |
| 3. 学会等名 一般財団法人神道文化会 第20回公開講演会（招待講演） |
| 4. 発表年 2018年 |

〔図書〕 計7件

| | |
|------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 岩下哲典・岡美穂子編著 藤澤紫ほか著 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 清水書院 | 5. 総ページ数 208 |
| 3. 書名 『つなぐ世界史2 近世』 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 藤澤紫 監修・著 日本放送協会編 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 NHK出版 | 5. 総ページ数 128 |
| 3. 書名 『浮世絵で体感! リアルな江戸LIFE (NHKテキスト)』 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 藤澤 紫、NHK「浮世絵EDO - L I F E」制作班 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 NHK出版 | 5. 総ページ数 280 |
| 3. 書名 『NHK浮世絵EDO - L I F E 東海道五拾三次』 | |

| | |
|----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 日本浮世絵博物館（監修）・藤澤紫（責任編集） | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 小学館 | 5. 総ページ数 178 |
| 3. 書名 『日本浮世絵博物館 浮世絵名品100選』 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 藤澤 紫、NHKプロモーション、NHKエデュケーショナル | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 講談社 | 5. 総ページ数 130 |
| 3. 書名 『NHK 浮世絵 EDO - LIFE 浮世絵で読み解く江戸の暮らし』 | |

| | |
|---------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 藤澤紫 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 國學院大學博物館 | 5. 総ページ数 53 |
| 3. 書名 浮世絵ガールズコレクション 江戸の美少女・明治のおきゃん | |

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 古田亮監修 藤澤紫ほか執筆 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 ミネルヴァ書房 | 5. 総ページ数 434 |
| 3. 書名 『教養の日本美術』 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

・展覧会監修：「特別展くもんの子ども浮世絵コレクション遊べる浮世絵展」（広島県立美術館2017年、練馬区立美術館2018年、奈良県立万葉文化館2020年、横須賀美術館2021年、栃木市美術館2023年）、「浮世絵ガールズコレクション 江戸の美少女・明治のおきゃん」 國學院大學博物館 (http://museum.kokugakuin.ac.jp/special_exhibition/detail/2019_ukiyo.html)

・テレビ番組浮世絵監修：NHK「浮世絵EDO LIFE」NHK-BS4K、NHKE-テレ (<https://www.nhk.jp/p/ts/D9L15JRZX4/>)

・新聞連載：「もっと！浮世絵と遊ぼう！」時事通信（長野日報、陸奥新報、苫小牧民報ほか）

・WEB掲載記事：時事ドットコムニュース「七福神」言えますか？ 浮世絵に学ぶ江戸庶民の信仰 (<https://www.jiji.com/jc/v8?id=202201shiiichihukju-shakaibuhatu>)、
「七福神」言えますか？ 浮世絵に学ぶ江戸庶民の信仰 (<https://www.jiji.com/jc/v8?id=202201shiiichihukju-shakaibuhatu>)

・テレビ番組出演：NHK WORLD-JAPAN「Japanology Plus」2021年2月2日 (<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/tv/japanologyplus/20210202/2032230/>)

・WEBインタビュー：KUMON now!スペシャルインタビューAcademic Milestones-学びを究める力前編 (https://www.kumon.ne.jp/kumonnow/special/052_1/)、
後編 (https://www.kumon.ne.jp/kumonnow/special/052_2/)、 國學院大學メディア 恋に魅せられ、人に惹かれて。浮世絵は、こんなに楽しい。
(<https://www.kokugakuin.ac.jp/article/97828>)

・和楽web 初心者大歓迎「遊べる浮世絵展」で見る、江戸の子ども絵・おもちゃ絵が面白い! (<https://intojapanwaraku.com/jpart/3372/>)

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|-------------------------------------|----|
| 研究協力者 | 荒川 正明 (ARAKAWA MASAAKI) (70392884) | 学習院大学・文学部・教授 (32606) | |
| 研究協力者 | 小池 寿子 (KOIKE HISAKO) (80306901) | 國學院大學・文学部・教授 (32614) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

| 国際研究集会 | 開催年 |
|--|---------------|
| Exchange meeting : 2nd University of Leuven/ Kokugakuin University International Academic Exchange Programme | 2023年 ~ 2023年 |

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |